第７号様式（第 11 条関係）　　活動報告書　　令和６年３月 11 日

団体名　一般社団法人土佐清水ジオパーク推進協議会

住所：土佐清水市三崎 4032-2　連絡先：0880-87-9590 代表者：理事長 程岡庸

事業名

マルバテイショウソウ保全活動

補助対象事業区分 ： 自然環境を守る取組

事業目的

希少植物マルバテイショウソウ（絶滅危惧 IA 類：高知県レッドデータブック 2022 植物編）の保全と野生復帰を目指す。

事業概要

事業区分 ： 一般事業
県補助金 ： 452 千円 （総事業費 453 千円）
実施期間 ： 令和５年12月13日～令和６年２月29日
施行場所 ： 土佐清水市内

事業内容

●保全地の環境整備 （実施期間：令和６年２月）
マルバテイショウソウの生育に適した環境の森をつくるため、マルバテイショウソウ保全地のアブラギリが優占する植生において、アブラギリの間伐を実施し、傾斜地の土砂の移動を抑制するための土留めを間伐木で作る。
●整備道具の購入 （実施期間：令和６年１月）
継続的な整備に必要な道具（チェーンソー及び刈払機）の購入。

結果と分析

立木の適度な伐採及び土留め設置により、マルバテイショウソウの生育に適した環境が実現された。また整備道具（チェーンソー及び刈払機）が設備されたことで、成長の早いアブラギリが大木になる前に伐採作業を実施することが可能となり、継続的な環境整備を実施することが可能となった。

今後の取組に向けて

今後も地元の保全活動実施者及び牧野植物園と連携し、モニタリング、継続的な環境整備、個体の育苗と植え戻し等を行い、継続して生育状況を確認しつつ、追加で必要な整備箇所を調査していく。

将来的には、保護のための保全地非公開との整合を取りつつ、勉強会や観察会といった啓発活動を通じて、市民に希少植物マルバテイショウソウについて周知するとともに、市民ボランティアグループの立ち上げなどによって保全活動の体制強化を目指す。

第７号様式（第 11 条関係）　　活動報告書　　令和６年３月 15 日

団体名　公益社団法人生態系トラスト協会

住所：高知県高岡郡四万十町大正 31-1　連絡先：0880-29-4011　代表者：中村滝男

事業名　**侵略的外来種サンジャクの行動圏調査＆緊急対策シンポジウム＆講習会の実施**

補助対象事業区分 ： 自然環境を守る取組

事業目的

緊急対策として専門家の協力を得て最新の情報を収集整理するとともに、発信機や GPS などの電波を使った調査に取り組むため、専門家を招聘して国際的なシンポジウムや講習会を実施する。

事業概要

サンジャクの背中に GPS 発信機を取り付け、血液検査なども行った上で、混獲によって捕獲され・提供を受けたサンジャク２羽に GPS 発信機を付けて放鳥し、データの扱い方を含めて延べ 10 名が講習を受け、放鳥したサンジャクを携帯電話の位置情報で確認するフィールドワークを実施した。また、台湾を含むサンジャク対策や外来種対策に実績のある５名の専門家を zoom 会議の講師として招聘し、四万十高校生写真部員など約 30 名が参加して意見交換を行った。

事業区分 ： 一般事業

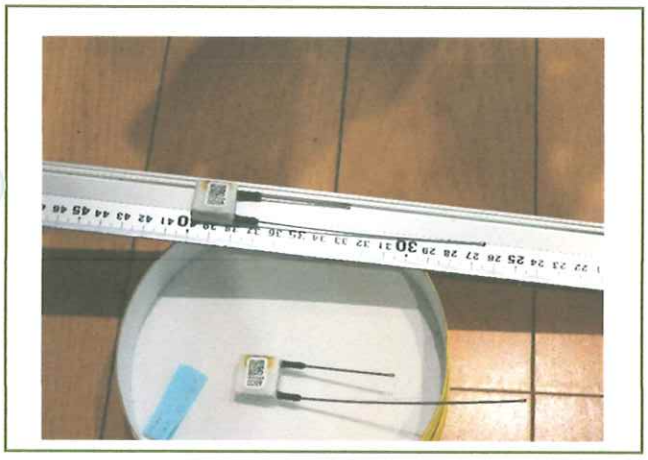
県補助金 ： 500 千円（総事業費 528 千円）

実施期間 ： 令和5年 12 月７日～令和６年２月 28 日

施行場所 ： 四万十町・四万十市

事業内容

フィールドワークは、天野一葉さんご夫妻や岡村麻生氏を講師に、四万十町内外の県民・生態系トラスト協会会員・猟友会関係者など、高知県内在住者が参加して実施された。緊急対策シンポジウムは、外来種に対策に実績のある台湾の姚正得氏（代理出席兼通訳：吉田章子氏）、森林総研の佐藤重穂氏（農学博士）、西表ヤマネコの調査や外来種対策に造詣が深い岡村麻生氏（理学博士）、６月にサンジャクの営巣調査に参加された日本野鳥の会大阪支部長の納家仁氏、ソウシチョウの研究者であり外来種対策に造詣が深い琵琶湖水族館の天野一葉氏などが講師として、２月 25 日 13 時～15 時に四万十ヤイロチョウの森ネイチャーセンターを会場に実施された。講演内容の概要や感想を公益社団法人生態系トラスト協会の会報誌「森のしずく」146 号に掲載予定である。



結果と分析

外来種・サンジャクが 1995 年に愛媛県宇和島市の飼育施設から集団で逃げ出して野生繁殖しながら代を重ねて 29 年となる。これまでのサンジャクの調査結果から、サンジャクがメジロ、シジュウカラ、オオルリなど在来種の小鳥に与える悪影響が明らかになった。ヤイロチョウの繁殖に与える悪影響も懸念されている。取り急ぎ、逃げだしたサンジャクの子孫を、確実に野生から回収する必要があると考えられる。在来種への被害対策を進めるため、フィールドワークで取り付けた GPS などの発信機を活用して、サンジャクの生態調査を今後も続けていく必要がある。

今後の取組に向けて

外来種・サンジャクは、現状では繁殖時期の生態は不明だが、令和 4 年度・5 年度の調査結果等から、冬季間は解体して捨ててあるシカやイノシシの死肉に集まることから、雑食性・肉食性が強いことが明らかになったが、当協会が管理する四万十町下道地区周辺では、まだ営巣木や巣などが見つかっていない。今後に残された課題としては、5 月～7 月と予想されるサンジャクの繁殖実態調査を行い、森の生態系の中で在来種の小鳥類との関係性を明らかにするとともに、被害防除のために捕獲方法等の情報収集も行いたいと考えている。

第７号様式（第 11 条関係）　　活動報告書　　令和　６年３月 20　日

団体名　日本防災植物協会

住所：四万十市入田3205　　連絡先:090-2625-8370　　代表者：石川愼吾

事業名

ぼうさい植物ってなあに？

補助対象事業区分 ： 自然環境を守る取組

事業目的

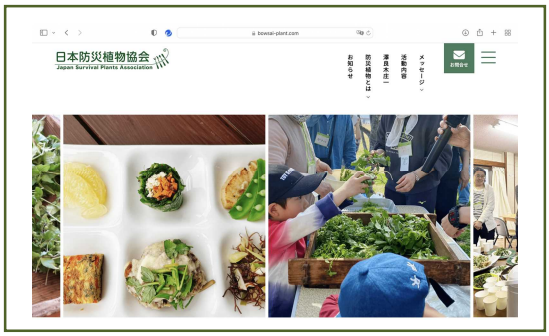
防災植物を学ぶ活動を通じて自然の豊かさを知り、環境保全や生物多様性に興味をもってもらう。そして高知県の足もとの豊かさを県内外に広くアピールし自然資源を守る土台づくりを行う。

事業概要

事業区分 ： 一般事業
県補助金 ： 500 千円 （総事業費 527 千円）
実施期間 ： 令和５年７月１日～令和６年 ３月 31 日
施行場所 ： Web 四万十川キャンプ場

事業内容

これまでの活動や情報を整理してホームページを作成した。自然や風景の写真、植物スケッチなど様々な素材を使用して、県内外の幅広い世代を対象に高知県の豊かな自然の魅力が感じられるようにした。また第 25 回防災植物教室「菜の花畑で青空教室」では広報に利用し、チラシにはホームページの QR コードを入れた。当日の教室でも QR コードからホームページ閲覧を紹介し、参加者から感想や意見などを収集した。



結果と分析

写真や植物スケッチなどを使用して、県内外の幅広い世代を対象に高知県の豊かな自然が感じられるホームページができたと思う。しかし製作を進める中で、もっと深く掘り下げなければいけない部分に気付くことや、当初予定していたものが予算内では現せないということもあった。実際にホームページを見た人からの感想は「シンプルな構成で使いやすい」「写真が多くとても魅力的」「ホームページができる以前の活動情報も知りたい」などの意見があった。また「菜の花畑で青空教室」の様子はNHKの情報番組やWeb上でも紹介されており、そこでホームページ情報もアップしてもらい閲覧に導いている。

今後の取組に向けて

今後もページ内容の拡充と発信を続けていく、またページ開設を広くアピールして行きたい。

団体名　ジンデ池生物研究所

住所：須崎市上分乙 1171　　連絡先：080-1993-0982　代表者：植村 優人

事業名

トンボとホタルの飛び交う里山づくり大作戦

補助対象事業区分 ： 自然環境を守る取組

事業目的

須崎市安和にあるため池通称「ジンデ池」の生物多様性の豊かな里山環境を整備し、更に生物が増える池になるようにジンデ池生物研究所、地元住民、地元小学生や地区外からの参加者と共に保全活動を行う。生物多様性の大切さについて学び楽しさや大切さを共有する。

事業概要

事業区分 ： 一般事業
県補助金 ： 488 千円 （総事業費 491 千円）
実施期間 ： 令和6年12月 6日～令和6年3月26日
施行場所 ： 須崎市安和

事業内容

昨年に続き、池の富栄養化を防ぎ開放水面を作るための水中の除草作業と 2023年の調査でヒメホタルを池の裏の山林で確認したため、安和小学校の 5.6 年生を中心に生息地の保全のための間伐、更に池の下の湿地帯の草刈りを行った。トンボやホタルをはじめたくさんの生物が増やすため、様々な里山環境を人の手を入れて整備をした。

生物調査も行い、池の生き物について楽しく学習できた。

また、安和小学校に事前に環境学習を行い生物多様性について、ホタルについて知る授業を行った。

結果と分析

昨年に引き続き総勢50名ほどの参加となり、目標としていた作業全て終えることができた。小中高校生の子ども達、大学生、地域住民など幅広い多くの人で生物多様性を守るための保全活動が実践でき、交流の場になったのは有意義であった。

昨年環境整備をしたことで、チョウトンボが飛来し、確認種が増えたので、一定の成果があったと言える。今年は池だけでなく、更に広い範囲の保全活動が出来たため、生物調査を続けていき、今年の保全活動の成果と分析をしていき、多くの方に知ってもらうために HP の活用もしていきたい。念願だった HP を作成できたので、ジンデ池生物研究所の活動を拡散していきたい。

今後の取組に向けて

今回の保全活動で行った作業が生き物にとってどのような影響があるのか、また次回の保全活動の計画につなげていくため、引き続き調査研究、検証を行う。ヒメボタルの発生時期に観察会を開催するなど、今後も生物多様性の豊かさを知ってもらう機会を作り、生物のたくさんいる環境の楽しさや大切さを広めていきたい。

第７号様式（第 11 条関係）　　活動報告書　　令和６年３月２９日

団体名　高知昆虫研究会

住所：高知県高知市萩町二丁目２番 25 号株式会社東洋電化テクノリサーチ美濃方
連絡先：090−6289−1247　　代表者：会長 真鍋泰彦

事業名　高校生と専門家とで協働する高知県昆虫標本保護事業

補助対象事業区分 ： 自然環境を守る取組

事業目的

高知県内に現存する昆虫標本について、散逸と県外流失を防ぐために、緊急避難的に保管管理ができる体制と設備を構築する。

事業概要

事業区分 ： 自然環境を守る取組
県補助金 ： 500 千円 （総事業費 500 千円）
実施期間 ： 令和5年12月6日～令和6年3月15日
施行場所 ： 高知県立小津高等学校

事業内容

高齢化や収蔵場所不足により高知県内で存続が危ぶまれている昆虫標本を、高知県立小津高等学校2階標本室を活用して、整理、活用保管する。

中心になって保管管理を行うのは生物部部員が担い、専門家の指導を受けて整理、保管、活用しながら、さらに次代へ継承する体制を構築する。

結果と分析

・本事業で扱った標本コレクションは、高知市在住の昆虫研究者所有のコレクション（昆虫標本箱約 300 箱）および龍河洞博物館所蔵のコレクション（昆虫標本箱約 50 箱）であった。
・高知昆虫研究会会員をはじめとする専門家による生徒への標本の取扱い手法の指導は、12月から3月までの毎月一回、計4回開催した。
・収蔵された標本を高知昆虫研究会会員の指導の下、小津高等学校生物部の生徒及び近隣高等学校の生徒が中心となって、データ整理と状態のチェックを行った。

今後の取組に向けて

整理した標本は、将来文化祭などで生徒自身による定例的に展示活動を行い、積極的な情報発信を行う。

展示場は小津高等学校校舎内を中心に、将来協力を得られれば高知みらい科学館でも開催する。

第７号様式（第 11 条関係）　　活動報告書　　令和６年３月２９日

団体名　特定非営利活動法人
四国自然史科学研究センター

住所：須崎市下分乙 470-1 新荘公民館内　連絡先：0889-40-0840 代表者：理事長 濱田哲暁

事業名　**高知県内の生物情報を収集、整理、保管、発信する事業**

補助対象事業区分　：　自然環境を守る取組

事業目的

高知県における生物情報の収集、蓄積、提供の重要性について情報発信し、県民と共有する。最新の生物生息状況を紹介し、「高知県の自然」に関して興味喚起を図り、これからの地域生態系保全と人と野生生物との共存について考えるきっかけを、広く県民に対して提供する。

事業概要

事業区分　：　自然環境を守る取組
県補助金　：　500 千円（総事業費　500 千円）
実施期間　：　令和５年12月6日～令和6年3月29日
施行場所　：　越知町立横倉山自然の森博物館

事業内容

活動1.高知県産生物標本作製および公開
　当センターが収集保管している生物遺骸を標本化し、横倉山自然の森博物館で公開した。
活動2.特別展「横倉山生物総合調査成果報告」
　①生物総合調査員による調査結果発表（ポスター形式）
　②ポスター発表内容の説明会（発表者による解説）
　③標本化した生物資料の展示

結果と分析

活動1.高知県産生物標本作製および公開
　クロアシアホウドリ、ソリハシセイタカシギを本剥製化して、展示公開した。
活動2.特別展「横倉山生物総合調査成果報告」
　令和６年３月 23 日より、横倉山自然の森博物館を会場にポスター形式による生物総合調査員による調査結果発表を開催している。関連した活動として、ポスター発表内容の説明会、標本化した生物資料の展示を実施した。
　上記の活動により、高知県の自然情報の証拠（遺骸）を標本化し、情報発信の素材として活用することができた。また、特別展を見た人々に対して、高知県の自然への興味喚起を図り、これからの地域生態系保全と人と野生生物との共存について考えるきっかけを提供できた。

今後の取組に向けて

　本剥製化した鳥類標本は、令和６年度には高知県内の標本展示施設において巡回展示を行う予定である。特別展で作製したポスターは PDF 化し、ホームページ上で公開及び冊子として取りまとめて印刷発行、無料配布するように関係者と協議を行う予定。

第７号様式（第 11 条関係）　　活動報告書　　令和６年３月 30 日

団体名　いきものや

住所：高知市曙町二丁目５番１号　　連絡先：08026264115　　代表者：市川 空

事業名　**～高知の豊かな生物多様性を後世に伝える～標本作成会**

補助対象事業区分 ： 自然環境を守る取組

事業目的

現在、横倉山自然の森博物館では、交通事故などで死んだ哺乳類を回収し、それを標本にして研究や自然環境の普及活動に取り組んでいます。しかし、学芸員の人数が少なく、また彼ら自身の研究や博物館での仕事もあるために、標本作成を学芸員の方だけで行うのは困難な状況です。また、高知大学の生き物関係のサークルは研究を行うものがあっても、人々に情報を発信し、次世代につなげていくサークルはありません。

そこで、これらの問題を解決するために実施しようと考えたのが、この標本作成会です。学生だけでなく学外の方にも参加していただくことで、多くの人に生き物の体の仕組みや自然環境について知ってもらいたいと考えています。また、このイベントを開くことで、博物館やその研究の一助となることも目的の一つです。

事業概要

事業区分 ： 自然環境を守る取組

県補助金 ： 187 千円（総事業費 188 千円）

実施期間 ： 令和６年２月 11 日～令和６年３月 30 日

施行場所 ： 高知大学

事業内容

哺乳類の骨格標本作成の過程にある「解剖」と「ナンバーの書き込み」をイベントとして行った。解剖会では、博物館が収集した動物の死体を参加者が解剖しながら、生き物の体の仕組みについて学んでもらい、ホネホネパズル体験会（ナンバーの書き込み）では、これは骨格標本に標本番号を書き込む作業を行うだけでなく、実際に本物の骨に触れながらパズルのように骨を並べて楽しんでもらった。

骨のナンバー書きのイベントを２月 11 日、解剖会を３月 30 日に行った。対象者はいきものに興味のあるすべての人とし、場所は主に高知大学理工学部棟１号館を使用した。

結果と分析

２月 11 日に行ったホネホネパズル体験会では、イベントの告知をいきものやのメンバーと高知大学理工学部生物科の１年生に行い、インスタグラム上でイベントの告知の投稿をしたが、参加者は大学生 10 名のみだった。3 月 30 日の解剖会では、それに加え、土佐塾高校にも理科の教員を通じて告知を行ってもらったため、参加者は 24 名（大人１名、大学生 11 名、高校生５名、中学生６名、小学生１名）になった。

インスタグラムでの告知は簡単に行えて拡散されやすいと考えていたが、インスタグラムで知って参加を申し込んだという人はおらず、SNS ではある程度フォロワーがいないと効果を発揮しないということが分かった。

また、どちらのイベントでも多くの参加者たちがイベント中に「おぉ～!」「すごい!」「面白い!」という声を上げており、「すごく勉強になった」という人もいた。参加者の人数が少ないイベントでも同様の反応が見られたことから、参加者が少ないのはその事業に需要がないということではなく、告知の方法や時期によるものだと考えられる。

今後の取組に向けて

今回、どちらのイベントも参加者にアンケートを書いてもらわなかったが、これからはアンケートを作るなどして参加者からの意見を取り入れようと思う。

また、イベントのスタッフ全員に情報を周知することができていなかったため、今後は全員と連絡を取り合い、参加者だけでなく、運営側も満足できるようなイベントにしていきたい。